ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E1440018	障害児教育演習　(Practical Seminar on Special Education)		

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択必修	2	3	教育学部	後期	金5	氏名　古長治基・池永恵美・古賀精治・五位塚和也 E-mail　h-kocho@oita-u.ac.jp, m-ikenaga@oita-u.ac.jp, skoga@oita-u.ac.jp, k-goitsuka@oita-

授業の概要

動作に不自由のある児・者に大学に来てもらい、動作法（心理リハビリテイションの中心となる指導法）や遊びの指導を実際に行うことによって、障害児の指導や支援の仕方について方法を学ぶ。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	動作不自由のある子どもの発達の実態を説明できる		○	○							
目標2	動作不自由のある子どもの動作の指導方法について実践できる		○	○							
目標3	動作不自由のある子どもの遊びの指導を実践できる		○	○							
目標4	動作不自由のある子どもの動作や遊びの指導方法に必要な準備・配慮ができる		○	○							
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	動作不自由のある子どもの保護者との面接の実際
2	動作不自由のある子どもの発達検査の実際
3	知的障害を伴う動作不自由のある子どもの発達検査の実際
4	動作法の観点からみた動作不自由の実態把握
5	動作不自由のある子どものコミュニケーションの基礎的能力についての実態把握
6	知的障害を伴う動作不自由のある子どもとのラポートの取り方
7	動作不自由のある子どもの遊びの指導
8	知的障害を伴う動作不自由のある子どもの遊びの指導
9	動作法による姿勢と運動・動作の基本的技能に関する指導１－緊張・弛緩の制御－
10	動作法による姿勢と運動・動作の基本的技能に関する指導２－姿勢保持・変換－
11	動作法による身体の移動能力に関する指導１－重心移動と踏み締め－
12	動作法による身体の移動能力に関する指導２－歩行－
13	動作法による作業に必要な基本動作に関する指導－上肢の基本動作－
14	動作法による日常生活に必要な基本動作に関する指導－書字動作－
15	指導結果のまとめ方

アクティブラーニング		原則として一人の障害児を担当する。また受講者全員で遊びの指導を企画・実施する。	その他の工夫	
A:知識の定着・確認				
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向	○			
D:知識の活用・創造	○			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	指導の企画実施のための準備が必要となる（15ｈ）
事後学修	指導後に、指導の記録をもとに振り返りを行う（15ｈ）

教科書

田中新正（2014）ダウン症の動作法－指導マニュアル－

参考書

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編」　文部科学省
九州大学発達臨床センター（1991）　基礎から学ぶ動作訓練　ナカニシヤ出版　ISBN-13　978-4888484725
九州大学総合臨床心理センター（2015）　基礎から学ぶ動作法　ナカニシヤ出版　ISBN-13　978-4779508998

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
実技の課題到達度	60%	○	○	○	○						
課題レポート	30%	○	○								
教材・教具等の準備とその取組	10%		○	○	○						

注意事項

原則として特別支援教育コースの学生に限る。それぞれ一人の子どもを担当するので、社会的責任を自覚し、参加すること。運動できる服装で出席すること。

備考

なし。

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	五位塚和也（臨床心理士・公認心理師）
実務経験をいかした教育内容	障害のある子どもおよび保護者への発達相談に関する実務経験と専門的技能を活かし、障害のある子どもの実態把握の方法および指導・支援の技法について、学生が実践的に学ぶことのできる授業を展開する。